

超低汚染 水性2液形シリコン樹脂系塗料

パワーオーデフレッシュSi

つや有り・7分つや有り・5分つや有り・3分つや有り・つや消し

超低汚染 水性2液形フッ素樹脂塗料

パワーオーデフレッシュF

つや有り・7分つや有り・5分つや有り・3分つや有り・つや消し



POWER
O-DE FRESH



その美しさを
いつまでも



パワーオーデフレッシュシリーズ

〈超低汚染の最高ランク〉持続する潤い効果で、 長期にわたり『美しい肌』を維持

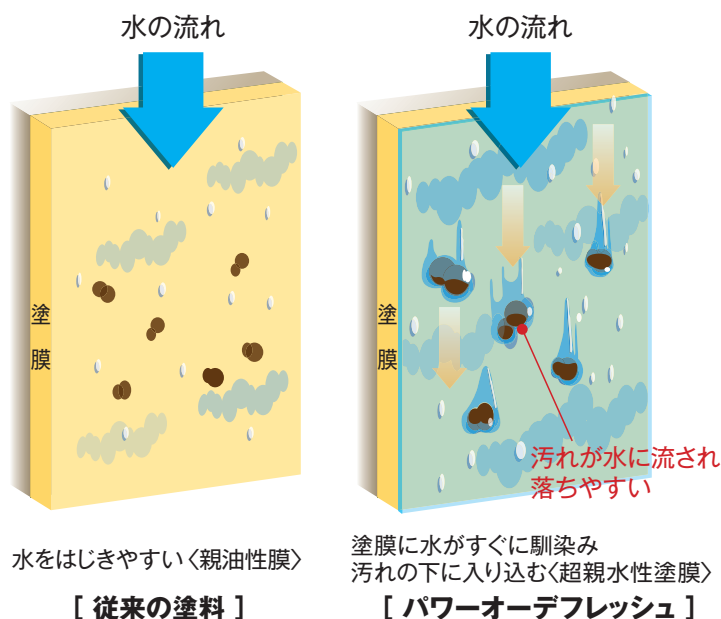
特長

外壁面の汚染を抑制するには、塗膜表面を親水化し、水に濡れやすくすることが最も有効です。「パワーオーデフレッシュシリーズ」では、塗膜表面の親水化を追求、長期に渡る塗膜表面の潤い効果で、非常に高いレベルでの超低汚染性を発揮します。

①超低汚染性

「パワーオーデフレッシュシリーズ」では、特殊低汚染化成分を配合することで、従来の塗料に比べ、非常に高いレベルでの親水性を発揮します。さらに、塗膜表面が低帯電性の緻密な塗膜であることから、汚染物質が定着しにくい塗膜構造としています。

■汚染抑制のメカニズム



■雨だれ汚染暴露試験 12ヶ月経過後

パワーオーデフレッシュ

当社一般水性
低汚染塗料



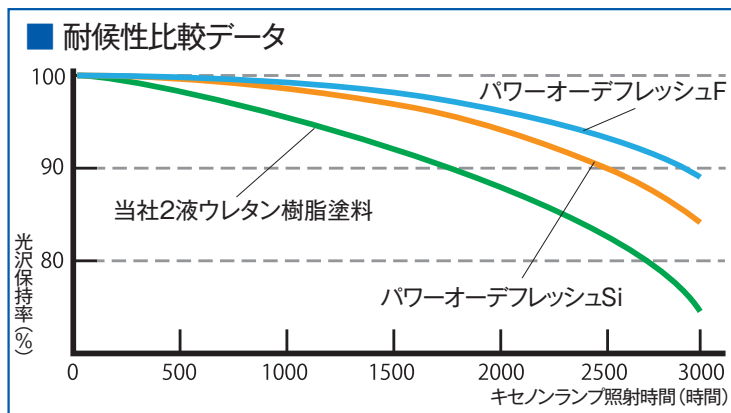
②高耐候

緻密で強固に結合した分子構造の働きで、外壁塗膜の劣化を最小限におさえ、高い耐候性を発揮します。

④強力防藻・防かび機能

当社標準の防藻・防かび効果と比較し、優れた繁殖抑制機能を発揮し、微生物による塗膜汚染も抑制します。

*当社従来比において、ワンランク上の防藻・防かび機能となります。



	防藻・防かび 機能なし	当社標準 防藻・防かび機能	強力防藻・防かび機能 パワーオーデフレッシュ
防藻性能			
防かび性能			

*通常実施する試験時間の3倍の試験時間で実施

③塗装仕様のバリエーション

～ 超低汚染性能と弾性仕様

「超低汚染性能」と「微弾性／弾性仕様」を両立、各種弾性主材の上塗りとして適用できます。「超低汚染性能」が汚れにくい塗膜を形成し、「弾性仕様」が防水機能・コンクリートの中酸化抑制機能を発揮し、お住まいをより長く、美しく保つことを可能にします。

⑤水 性

臭気・VOC(揮発性有機化合物)の発生を低く抑えることができるので、塗り替えに最適です。

用 途

●集合住宅・マンション ●戸建住宅 ●教育・保育施設 ●介護・福祉施設 ●公共施設 ●商業施設・店舗 ●オフィスビル
●工場・倉庫 などの外壁塗装

適用下地

- 改修面の各種旧塗膜(アクリルリシン・吹付けタイル、その他旧塗膜)
●新設面の各種素材(現場打ちコンクリート、モルタル、ALCパネル など)

製品体系

工 程	製品名	色 相	つ や	容 量	希釈剤	希釈率(%)	使用量	塗り面積/ 缶当り/1工程	塗装方法	ポットライフ (23℃)
専用中塗り材	オーデフレッシュ共通中塗	各色 ^(注1)	つや有り	15kg						—
上塗り材	パワーオーデフレッシュSi	各 色	つや有り 7分つや有り 5分つや有り 3分つや有り つや消し	15kgセット (塗料液14kg・硬化剤1kg) 塗料液・硬化剤=14:1(重量比)	水道水	5～10	0.14～0.17	88～ 107㎡	はけ ウールローラー エアレススプレー	6時間
	パワーオーデフレッシュF									

・上記の各数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定器・測定方法により増減します。
・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。
(注1)上塗り材と専用中塗り材では、耐候性・低汚染性などに差があります。上塗り材との区別のため、中塗り材の色相は、上塗りのご指定色に対してわずかに淡彩側にすらした共色にて出荷いたします。

ポットライフ・乾燥時間

上塗り材	ポットライフ(23℃)	・2液形塗料のため、混合時の攪拌は十分に実施してください。少量取分けて混合する際には、適性な混合比にて重さを計量した上で、混合してください。 ・混合後6時間を経過した段階から徐々に低汚染性が低下していきます。 6時間以内で使い切れる範囲にて混合、施工して頂くようお願い致します。
パワーオーデフレッシュSi	6時間	
パワーオーデフレッシュF	6時間	

上塗り材	5～10℃	23℃	30℃
指 触 乾 燥	2時間	1時間	20分
塗り重ね乾燥	8時間以上	3時間以上	2時間以上

専用中塗り材	5～10℃	23℃	30℃
指 触 乾 燥	40分	15分	10分
塗り重ね乾燥	8時間以上	3時間以上	2時間以上

・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

主な適用下塗り塗料 適用主材

ニッペ パーフェクトフィラー
ニッペ パーフェクトサーフ
ニッペ ファイン浸透シーラー
ニッペ DANフィラーリフレックス
ニッペ DANフィラーエポ
ニッペ アンダーフィラー弾性エクセル

ニッペ タイルラック1液EPO-Sベース
ニッペ タイルラックEMA-Sベース100K
ニッペ DANタイル中塗
ニッペ DANフィラーエポS

標準塗装仕様 (塗り替え:可とう形改修塗材RE・防水形複層塗材REを下塗りに選定した仕様例)

微弾性仕様

工 程	製品名	塗り回数	使用量 (kg/㎡/回)	塗り重ね乾燥時間 (23℃)	希 釈 剤	希釈率 (%)	塗装方法	
下地調整	活膜を残し、膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺部分を含めて入念に除去する。ごみ、砂じん、油分などの付着物をワイヤーブラシ、皮すき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。							
下塗り	ニッペ DANフィラーリフレックス	平滑	0.30～0.60	4時間以上	水道水	3～6	ウールローラー	
		なみかた	0.80～1.30			0～3	砂骨ローラー	
シリコン	中塗り	オーデフレッシュ共通中塗	1	0.14～0.17	3時間以上	水道水	5～10	ウールローラー エアレススプレー
	上塗り				パワーオーデフレッシュSi			
フッ素	中塗り	オーデフレッシュ共通中塗	1	0.14～0.17	3時間以上	水道水	5～10	ウールローラー エアレススプレー
	上塗り				パワーオーデフレッシュF			

弾性仕様

工 程	製品名	塗り回数	使用量 (kg/㎡/回)	塗り重ね乾燥時間 (23℃)	希 釈 剤	希釈率 (%)	塗装方法	
下地調整	活膜を残し、膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺部分を含めて入念に除去する。ごみ、砂じん、油分などの付着物をワイヤーブラシ、皮すき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。							
下塗り1回目	ニッペ DANフィラーエポ	1	0.80～1.30	4時間以上	水道水	0～3	砂骨ローラー	
下塗り2回目				16時間以上				
シリコン	中塗り	オーデフレッシュ共通中塗	1	0.14～0.17	3時間以上	水道水	5～10	ウールローラー エアレススプレー
	上塗り				パワーオーデフレッシュSi(注2)			
フッ素	中塗り	オーデフレッシュ共通中塗	1	0.14～0.17	3時間以上	水道水	5～10	ウールローラー エアレススプレー
	上塗り				パワーオーデフレッシュF(注2)			

(注2)つや消し塗料は、【DANフィラーエポ】の上塗りとしては適用できません。7分つや有り・5分つや有り・3分つや有り塗料の適用は可能です。

- ①中塗りは必ずオーデプレッシュ共通中塗をご使用ください。
- ②塗料液と硬化剤を混合後の塗料については、必ず使用するようにしてください。
- ③塗料液と硬化剤の反応に伴い、炭酸ガス(CO₂)が発生します。混合後の塗料を密閉容器に保管しますと、炭酸ガスにより、容器内の圧力が高まることから、密閉容器への保管は避けてください。特に高温になる環境(夏場・車内等)では炭酸ガスの発生が促進し、ふたが飛ぶ等のおそれがあることから、絶対に避けてください。
- ④絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水溶成分が表面に溶出し、粘着物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
- ⑤塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- ⑥つや調整品では、はけ、ローラーでの塗装はむらが出やすくなりますので、スプレー塗装をおすすめいたします。
- ⑦つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通して塗装してください。
- ⑧過剰希釈をするとか本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量をまもってください。
- ⑨つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。
- ⑩つや調整品は、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かくはんしながらご使用ください。
- ⑪防藻・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
- ⑫被塗物の構造、部位、塗装仕上り形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が発現されない場合があります。
- ⑬塗装面を部分補修する際には、硬化剤の入れ忘れにご注意ください。汚染および発生の原因になります。
- ⑭塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風のない場合には、膨れ、は離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。
- ⑮色相によっては降雨、結露によってぬれ色になる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。
- ⑯乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭かず、せっけん水で洗浄してください。
- ⑰スプレーノズルの先端は、ときどき水洗いをしてください。作業効率の低下および塗りむらの原因になります。
- ⑱乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じることがありますが、時間とともになくなります。
- ⑲反応硬化タイプの塗料のため、使用後はけなどはできるだけ早く水で洗浄してください。固まった場合は、すみやかにラッカーシンナーで洗浄してください。
- ⑳動物はけは、はけが固まったりタマになりやすいので、できるだけナイロンはけをご使用ください。
- ㉑旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
- ㉒既存塗膜のく離個所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- ㉓風化面・吸込みの著しい下地では、ニッパ浸透性シーラー(新)、ニッパ液浸透シーラー、ニッパファイン浸透シーラーをご使用ください。
- ㉔塗り替え時のシーラーは、ウルトラシーラーⅢまたは水性カチオンシーラーをご使用ください。溶剤系シーラーのご使用は、旧塗膜の種類によっては溶剤膨れを発生させることがあります。
- ㉕シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
- ㉖タイル面の洗浄に使用する薬剤が塗装面に付着すると、変色や早期劣化などを生じることがありますので、このような場合には薬剤が付着しない様に塗膜面の養生を行ってください。
- ㉗素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケット科学社製CH-2型で測定した場合)、または5%以下(ケット科学社製H500シリーズ:コンクリートレンジで測定した場合)の条件で塗装してください。
- ㉘表面のごみ、ほこり、エフロレッセンス、レイトランスなどは除去し、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。
- ㉙ALC面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材(ニッパ1材力チオンフィラー、ニッパフィラー200)などとして処理してください。(合成樹脂エマルジョンシーラーの使用は避けてください。)

- ①内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。
- ②材齢の若いコンクリートなどセメント成分が十分に硬化していない場合、エフロッセツグが発生するおそれがありますので、溶剤系シーラーをご使用下さい。
- ③新設の押出成形セメント板、GRC板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ液浸透シーラー、ニッペファイン浸透シーラーをお使いください。
- ④塗装直後から頻繁に人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、皮脂の影響により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。
- ⑤塗料液と硬化剤の混合割合は、必ずまもってください。混合割合が不適切な場合、塗膜性能が発現されなかったり、仕上がりや作業性が低下することがあります。
- ⑥屋外の塗装（降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- ⑦塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が速れますので、換気を十分に行ってください。
- ⑧塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- ⑨飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- ⑩シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離などの不具合を起こすことがありますので、原則としてニッペパーフェクトNBシーラーを除き行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
- ⑪笠木、天端など長時間水が滞留する個所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- ⑫薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- ⑬上塗りは1回仕上げですので原則的に中塗りは共色で塗装してください。特に汚れたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は必ず中塗りを共色塗装してください。
- ⑭調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
- ⑮濃彩色や汚れた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような個所に使用する場合は、ファインシリコネッシュリッカーを上塗りに塗装してください。クリーヤーのローラー及び刷毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や滲みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
- ⑯大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
- ⑰はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
- ⑱ローラー塗りの場合、ローラー目は一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
- ⑲塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
- ⑳汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
- ㉑ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
- ㉒可塑剤が多く含まれる塩ビソル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革、塩ビクロスなどへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようご注意ください。
- ㉓平滑仕上げや鏡面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸込みや果穴によるピンホール、凹凸などを防止するため、パテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。
- ㉔塗料は内容物が均一になるようかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
- ㉕開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- ㉖開缶後は皮張りがしやすいため、表面にうすく希釈剤を張り、ふたをしておくと、皮張りを避けることができます。
- ㉗大気中の浮遊鉄成分が多い地域では、この鉄成分が塗膜表面に付着し、塗膜が赤褐色に変色したように見える場合があります。
- ㉘塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- ㉙製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート（SDS）をご参照ください。
- ㉚主剤と硬化剤の混合は必ず均一に行い、また割合は必ず守ってください。混合状態が不均一な場合、塗膜性能が発現されなかったり、仕上がりや作業性が低下することがあります。

横倒禁止

16. 直射日光や水濡れは厳禁です。
17. 塗料等の缶の積み重ねは3段までとしてください。
18. 内物・容器を庫/地方自治体の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
19. 容器は、つり上げないでください。やむを得ずつり上げるときには、適切なつり具で、垂直に持ち上げ、落下に十分注意してください。(荷重になると取っ手が外れ、落下事故の危険があります。)
20. 塗料、塗料容器、塗装具を廃棄する時には、産業廃棄物として処理してください。容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。
21. 容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

* 上記の表示は一例です。色相などにより、容器の表示とは異なる場合があります。

■ 詳細な内容、表示例以外の製品については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

■ 本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は事前にご相談ください。

危 険		危険有害性情報	遺伝性疾患のおそれ／長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害／水生生物に有害／長期継続的影響によって水生生物に有害
-----	---	---------	---

北海道支店 ☎ 011-370-3101 近畿支店 ☎ 06-6455-9608
東北支店 ☎ 022-232-6712 中国支店 ☎ 082-281-2180
関東支店 ☎ 03-5479-3614 四国支店 ☎ 0877-56-2346
北関東信越支店 ☎ 03-5479-3614 九州支店 ☎ 092-751-9861
中部支店 ☎ 052-461-1960

- 本カタログの内容については予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
●本カタログ中の製品名・会社名は、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
●©Copyright 2021 NIPPON PAINT CO., Ltd. All rights reserved.
●日本ペイントホームページ <http://www.nipponpaint.co.jp/>

カタログNo.
NP-Z072
AA210708T
2021年7月現在